

設楽発掘通信

No.88
令和6年
12月号

ハラビ^{だいら}平遺跡の発掘調査が始まりました

大名倉地域に位置するハラビ平遺跡は、設楽ダム建設により影響を受ける遺跡の一つで、以前の調査で石器や土器、陶器などが出土しています。今年度は、来年度以降の調査範囲を決めるための本発掘調査Aと全面的に掘り下げる本発掘調査Bを実施します。本発掘調査Aは十一月初頭に実施しました。現在は、本発掘調査Bを実施しています。調査終了は一月末を予定しております。

今年度の調査範囲は、山から川へと下っていく南向きのゆるい斜面となっております。調査範囲の東側は複数段に渡って石垣が築かれていました。これまでの調査で、この石垣の部分は古くは谷であり、そこを埋め立てていることが判明しています。その他の部分については、おおむね現在の地形と古い時代の地形が一致しているものと思われる、当時の地形が徐々に明らかになりつつあるところです。

(河嶋優輝)

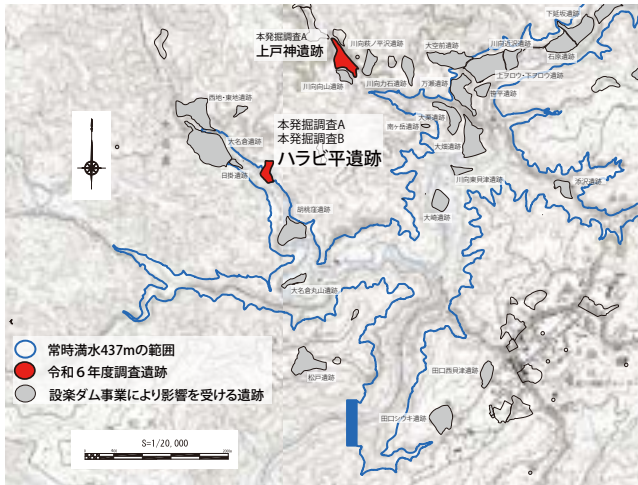


▲ハラビ平遺跡 今年度調査対象地 全景（南より）

出土石器の石材

発掘調査では、早速遺物が出土し始めています。新しいものは江戸時代後期以降の染付磁器そめつけじきなどもありますが、数が多いのは石器で、縄文時代のものと思われます。

石器として使われる石材はある程度限られています。今年度出土している石器の石材は、この地域では典型的なもので、写真のような色や質感をしています。



国土地理院発行 2万5千分の1地形図「田口」H27.1.1刊行より作成

▲ハラビ平遺跡の位置

右の黒曜石こくようせきは半透明の黒色のガラスのような岩石で、切れ味が非常に鋭いことで知られています。これまでに設楽町における調査で出土したものは、化学分析によってほとんどが長野県和田峠産のものと推定されており、この1点も同じ産地の可能性があります。

中央の安山岩あんざんがんは、設楽町の山々でも採取できる褐色の石材で、比較的大きな石器、石斧などにも利用されます。

左の溶結凝灰岩ようけつぎょうかいがんは、高温状態の火山灰が積もって固まることで出来る、ツルツルした白い石材で、矢じりなど比較的小さい石器によく使われます。近隣では新城市の棚山たなやまが産地として知られます。

(河嶋優輝)

設楽発掘通信

No.88

令和6年12月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター



〒498-0001 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ <http://www.maibun.com>
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力 株式会社文化財サービス



▲今年度調査で出土した石器(剥片)
(石材は左から溶結凝灰岩、安山岩、黒曜石)